

魅せる！ 現場

～現場を支える人々編～

環境の視点からダムを見守り
社会と自然との調和を目指す
～天ヶ瀬ダム再開発生物調査業務～

NIPPON KOEI

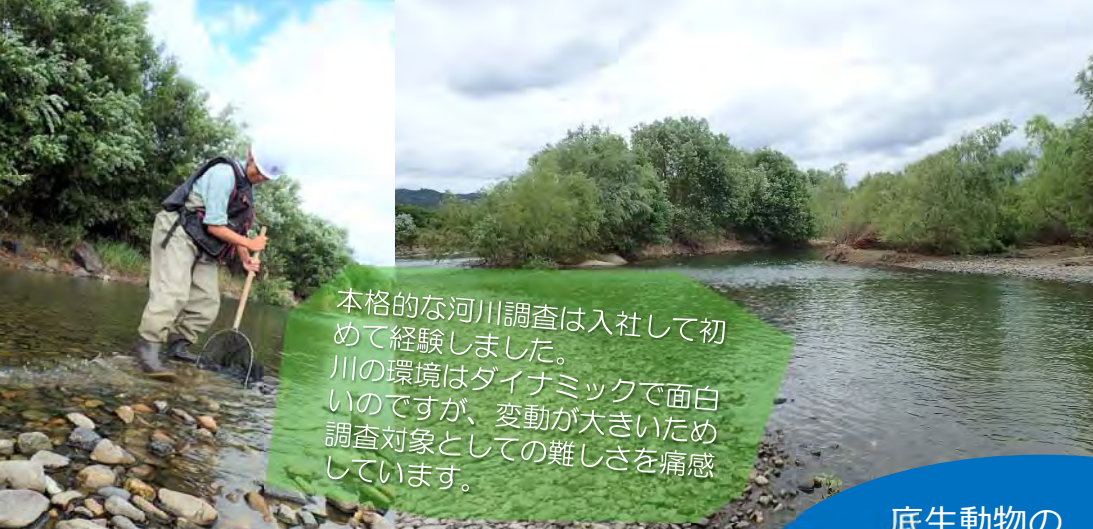
誠意をもって
ことにあたり、
技術を軸に
社会に貢献する。

日本工営株式会社 大阪支店
環境グループ

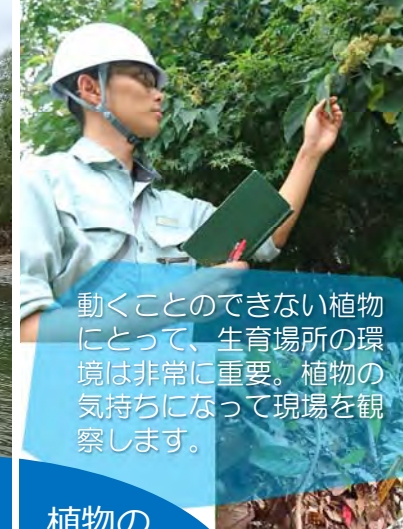
いのうえ たいき

井上 太樹

30歳（2018年現在）



本格的な河川調査は入社して初めて経験しました。川は環境がダイナミックで面白いのですが、変動が大きいので調査対象としての難しさを痛感しています。



動くことのできない植物にとって、生育場所の環境は非常に重要。植物の気持ちになって現場を観察します。



植物の調査

底生動物の調査

百聞は一見にしかず 現場で得た“気づき”が 業務の質を高める



まるでジャングル！？GPSを頼りに目的地を目指します。日差しがきつく、風もないため、十分な熱中症対策が不可欠です。

ヨシ原の調査



その他

調査後の楽しみ♪宇治といえば抹茶！調査の疲れも吹き飛びます！

天ヶ瀬ダム堤体の下流左岸側には、京都では珍しいシリブカガシ林が成立しています。写真は5年前実施した植生調査の様子です。



Q

業務の内容は？

A

天ヶ瀬ダム再開発事業によって影響を受けると予測される生物や生息場所について、モニタリング調査を実施しています。

Q

具体的なモニタリング調査内容は？

A

保全対策として移植を行った植物の生育状況の確認調査や、宇治川に棲む特徴的な動植物（指標種であるカワニナ類、カワセミ等）の生息状況や河床状況等を把握するための調査等を実施しています。

他のメンバーと議論をすることで、自分だけでは気が付かなかったことや、認識の違いを理解することができます。



ミーティング

ようやく完成した報告書。完成まで大変ですが、この達成感はコンサルタントの醍醐味だと思います。



資料作成



不明点や疑問点はすぐに調べます。根拠を丁寧に積み上げることが、成果品の品質向上につながります。

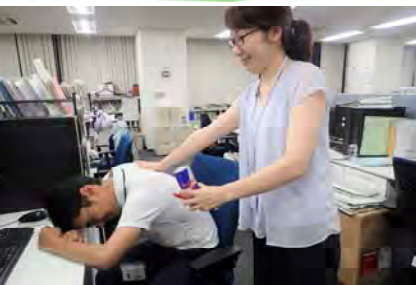
文武両道！ 現場/内業どちらも大切



管理技術者からの厳しい指導。「技術者として目標としたい!!」と思える人と一緒に仕事ができるのは、とても幸運なことです。

上司・先輩のサポート

支えてくれる仲間がいるので、安心して取り組むことができます。



休憩

疲れたらリフレッシュスペースでコーヒープレイク！仕事やプライベートの悩みも相談できます。



お昼はいつも愛妻弁当。支えてくれる家族にはとても感謝しています！

Q この仕事のやりがいとは？

A データに基づき、上司や先輩、さまざまな関係者間で議論し、一步一步課題を解決していく。この過程がとても面白いと感じています！

Q 建設コンサルタントとしての今後の抱負！

A 「環境と社会の調和」。言うことは簡単ですが、まだまだ未熟な私では何が正解なのか悩ましいことも多いです。この仕事を通して、自分なりの答えを見つけていきたいと思っています。

プライベートでは・・・

◀ 登山が趣味なので、時間があれば山に行きます。職場内の山好き一同でもよく登りに行きます。



天候が良いときを見計らって雪山にもチャレンジしています。



◀ 山で泊まるときはテントを持っていきます。テント泊は自然と一体になった気がして心地よいです。



妻の故郷が奄美大島なので、年に一回は遊びに行きます。普段見ることのできない亜熱帯の自然を満喫しています。写真は親戚のおじさんオススメのビーチ（土盛海岸）。



◀ 親戚のおじさんオススメの植物。ユワンツチトリモチ。ツチトリモチ科の多年生寄生植物。特定の樹木（イジュなど）の根に寄生して栄養を得ています。奄美群島固有種。



Q 業務中の思い出は？

A 入社してすぐの頃、天ヶ瀬ダムシリブカガシ林の調査を実施したことが特に印象に残っています。“シリブカガシ”という樹木は図鑑でしか見たことがなく、この時に初めて直接触れることができ感動したのを覚えています。

思い出のシリブカガシ



Q この業務にける意気込みをどうぞ！

A 豪雨の頻発など、以前に比べて災害リスクが増大してきているのを生活の中でも実感しています。そのような中で、天ヶ瀬ダム再開発事業の重要性はますます増していくものと思われます。一方で、事業の実施にあたっては、周辺環境への配慮も重要なテーマとなります。天ヶ瀬ダム周辺や宇治川のように都市域の側にある良好な自然環境は、地域にとってかけがえのない貴重な財産と言えます。この事業が、社会にとって様々な点でプラスになることを願い、微力ながらその一助となるべく業務に取り組んでいきたいと思ひます。